



# 東日本大震災追悼式

3月11日、「如水典礼さくらホール」において、浪江町東日本大震災11周年追悼式を行いました。今回は「新型コロナウイルス」の感染拡大防止を考慮し、規模を縮小しての開催となり、遺族・来賓合わせて41人の列席となりました。式の始めに、参加者全員で黙とうをささげ、犠牲者の冥福を祈りました。

吉田町長は式辞の中で、「11年の歳月を経てもなお、ご遺族の皆さまの悲しみや悔しさは少しも薄れることはないでしょう。改めて犠牲となられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆さまに謹んでお悔やみ申し上げます。これからも町民の皆さまが安心して暮らせるまちづくりに、全力で取り組んでまいります。」と述べました。

続いて、遺族を代表して遺族会会長 川口登さん（相馬市在住）が追悼の言葉を述べました。

本日ここに、多くのご来賓および県内外から多くの遺族が集い、令和3年度浪江町東日本大震災追悼式が挙行されるにあたり、遺族を代表しまして、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

先の大震災から、11回目の追悼式を迎えました。2011年3月11日、この風光明媚で穏やかな浪江町を、震度6強の大地震により15メートルを超える津波が襲来し、私たちのかけがえない、大切な家族が大勢犠牲となりました。中には、叫びたいほどの苦しみや想いをじっと我慢する者や悲しみをこらえながら必死に生きる者。あるいは、病気等で自らの想いを伝えられない方。また、東京電力第一原子力発電所事故の影響により、過酷な避難生活を強いられ、心身ともに疲弊し、命を落とされた町民の方々もいらつしやいます。震災を通して今なお、様々な状況下で多くの浪江町民が避難生活を送っております。こうした様々な人たちの思いを、私たち遺族は次の世代へとしっかりと語り継ぎ、困難にも負けずに前を歩んでいく責務があります。震災を乗り越え、成長していく浪江町と共に、私たち遺族も明るい未来へと新しい一歩を踏み出します。

結びに、東日本大震災で亡くなられた方のご冥福を心からお祈りするとともに、ご参列者の皆さまのご健勝を心からお祈り申し上げます。遺族代表の言葉といたします。



## 追悼の言葉

遺族代表 遺族会会長 川口

登さん

（相馬市在住）

## 「先人の丘」が完成

3月11日、「先人の丘」（旧請戸共同墓地）において完成式を執り行いました。

先人の丘は、東日本大震災の大津波により甚大な被害を受けた請戸共同墓地の中で、津波により散乱してしまった墓石やお骨を埋葬し、再び、先人を敬い、心を寄せる場となるよう整備されました。

完成した「先人の丘」が、震災によって被害を受けた地域住民の心を結び、地域の歴史とともに震災による経験を後世に伝えていく施設となるよう祈ります。



完成式の様子

